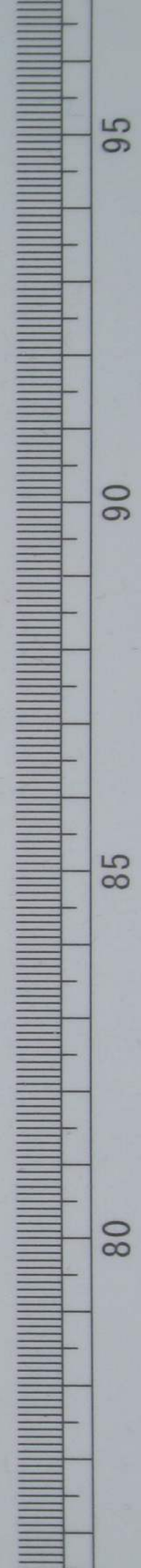


古今吉原大鑑
初編
上

特
邊
6
1054
11



- 新造
- 雇走
- 不寐番
- 昼夜見世
- 昼仕舞
- 初會裏三合
- 薄雲傳
- 薰傳
- 突出
- 遣手
- 男藝者
- 引子
- 居続
- 惣花
- 大隅傳
- 九重傳
- 禿
- 若者
- 牽頭付詩文
- 後朝
- 願三ヶ条
- 諸沢百物語
- 濃紫傳
- 紀文傳

卷中總標目終

吉原大鑑初編卷之上

東都 豊茂子撰集

○折込芝池遊廓の始り大橋柳町
 河岸橋町京橋角町と二十軒のり六十四五軒が外
 所より二軒三軒ぐえ世代用き高賞せし丸ふそのあり
 庄司甚を委つとらふの生まの相列小田原のめめて年十又
 文もて江戸へまう柳町より住るるが事初月とふ豊昌ふれが
 何とぞ定まりつる傾城町を起させんとをりめて

○明曆二申年十月元吉系町場西移の事
代地キ一七浅草のじろ日本院の
内ゆてなむらうと死よりうりよ
終よ日本院のうと推るぬ
多くの正徳元移りたるまづ元吉系町の二丁四方の場
一五五のまの移りゆく二丁の二丁の場
免得廿二の上料とて金二万五百
一回は十四あつありと成
一丁の二丁の場
二丁の二丁の場
三丁の二丁の場
四丁の二丁の場
五丁の二丁の場
六丁の二丁の場
七丁の二丁の場
八丁の二丁の場
九丁の二丁の場
十丁の二丁の場

二辛酉正月十八日五月の大火亡
る悉くは同日申す日本院の代地
但一移りたる内今村山谷村多
り一も移りたる内今村山谷村多
同日は十八日五月の内悉くは
まの移りたる内今村山谷村多
移りたる内今村山谷村多
と野と申す内今村山谷村多
と野と申す内今村山谷村多



○井戸を巻 ○箱巻を巻 ○拾巻を巻 ○二ヶ月を巻

○くら巻を巻 ○灯籠巻を巻 八ヶ岳あり

○仲の町 大ら口よりあはれ巻まで仲の町といふ

○七折 白子丁一目角の 待合の辻 白子丁一目の

○青市場 角丁と揚町の 本陣巻といふ ○秋葉山 燈籠巻 巻取巻

○大見夫 食 ありは丸あり

○太史 今から一巻史かきやい巻物ともいふあて大掛りあてみせを
とらへ巻七十巻後八ヶ岳巻とある又と九ヶ岳とある

○次掛子 女巻といふ 今から一巻後五ヶ岳巻といふ

○散茶 益敷合と分とと巻物と又巻物といふ仲の町の巻物といふ巻物
か且巻のいふと巻物といふことありは丸ありといふ巻物といふことあり

あみもの巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
お巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

○燈茶 白巻物の巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
つら巻物といふ巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

○扇 一分と巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
一分と巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

○扇女 巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

○扇女 巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

○小指子 巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

○切見世 巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

○新造 巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

初年よりはいふと巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ
巻物といふ巻物といふものありとらへ巻物の巻物といふ

日度入づるなりをいふは後也

○ 窠カ

十五のやうに里のまの坪あるものなるに「カ」に
そのまのやうに坪ありて坪に「カ」に持たるもの
中へ坪に「カ」に坪ありて坪に「カ」に持たるもの
陶器のまの坪に「カ」に坪ありて坪に「カ」に持たるもの

○ 兎ウ

鹿の子に「ウ」に坪ありて坪に「ウ」に持たるもの
鹿の子に「ウ」に坪ありて坪に「ウ」に持たるもの
鹿の子に「ウ」に坪ありて坪に「ウ」に持たるもの
鹿の子に「ウ」に坪ありて坪に「ウ」に持たるもの

○ 和若元兎ワニウ

鹿の子のまの坪に「ウ」に坪ありて坪に「ウ」に持たるもの

○ 鹿カ

鹿の子に「カ」に坪ありて坪に「カ」に持たるもの

○ 遣ウ

又の名香車 又花車

お下ておあつた鹿の子のまの坪に「ウ」に坪ありて坪に「ウ」に持たるもの

○ 若者ニヤ 牛ウシ 又妓キ

今に「ウ」に坪ありて坪に「ウ」に持たるもの

○ 不フ 寐メイ 香カウ

鹿の子のまの坪に「フ」に坪ありて坪に「フ」に持たるもの

○ 男オトコ 養ヤウ 者モノ

又「オトコ」に坪ありて坪に「オトコ」に持たるもの

鹿の子のまの坪に「オトコ」に坪ありて坪に「オトコ」に持たるもの
鹿の子のまの坪に「オトコ」に坪ありて坪に「オトコ」に持たるもの
鹿の子のまの坪に「オトコ」に坪ありて坪に「オトコ」に持たるもの
鹿の子のまの坪に「オトコ」に坪ありて坪に「オトコ」に持たるもの



江藤河村廻りてゆくをきく此石を味仕る怪あはく
あまのついでにゆく事

右を案の飯田行ひしと承元和二年終り四月終りまで
あまのついでにゆく一日一宿とおきり今よりそのあひで
の目切はせしむる事やまはりまてくあまのついでにゆく

○初令

あまのついでにゆく事

○裏約束

二令月あまのついでにゆく事

○二令目

あまのついでにゆく事
あまのついでにゆく事
あまのついでにゆく事

惣括

一令目三返 大七世

一令目三返 大七世

一令目三返分 二朱二世

一令目三返分 二朱二世

あまのついでにゆく事

諸款百との語

羅月堂金葉作

あまのついでにゆく事
あまのついでにゆく事
あまのついでにゆく事
あまのついでにゆく事
あまのついでにゆく事

心住こころず一いち成なり集あつああくくちちのの花はなののききははいいのの

さき

○長ながいいのの 日本にっぽん産う

ねじねじのの口くち昔むかし

移うつりりまませせののねね難がたぶぶー

ねじねじのの疾はや

○船ふねいいのの

ああいいののああ

ああいいののああ

○足あしいいのの

中なかのの目め足あし付づ

女め多たのの海うみ

海うみののああいいののああ

おおいいのの女め多たののああいいのの果は

○おおいいのの

わわいいののああいいののああ

ああいいののああいいののああ

○ああいいのの

ああいいののああいいののああ

ああいいののああいいののああ

隣となりりののああいいののああ

○ああいいのの

ああいいののああいいののああ

ああいいののああいいののああ

ああいいののああいいののああ

○ああいいのの

ああいいののああいいののああ

ああいいののああいいののああ

ああいいののああいいののああ

ああいいののああいいののああ

○ああいいのの

ああいいののああいいののああ

女弟の意気地

らきる女弟

○ 静しらのの

あやげの形ま

和合の巻しきま

なまやりの指子

○ ちのよたの

あはれあやの藤る

あはれあやの藤る

○ ののののの

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

○ きののののの

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

○ ちのよたの

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

○ ののののの

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

あやあやのあやあや

○ ののののの

物々々々々々々々々々々々

中々々々々々々々々々々々

○ 物々々々々々々々々々

年何れと付けらる

○ 寒々々々々々々々々々

あふふをををををを

○ うそらうそらうそら

法々々々々々々々々々々々

吉原大鑑初編卷之上終

三々々々々々々々々々々々

物々々々々々々々々々々々

初々々々々々々々々々々々

初々々々々々々々々々々々

あふふをををををを



